



【令和6年度予算（案） 5,355百万円（5,308百万円）】

## 環境政策の推進に不可欠な研究開発を促進します。

### 1. 事業目的

気候変動問題への対応、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施（エネルギー起源CO2排出削減に直接資する研究開発等は対象外）。

### 2. 事業内容

環境研究総合推進費は、環境省の行政ニーズを提示して公募を行い、産学官の研究者から提案を募り、審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的研究費です。「環境研究・環境技術開発の推進戦略」「第6期科学技術・イノベーション基本計画」等を踏まえ、環境政策への貢献・反映に立脚した戦略的な研究開発、Society 5.0実現に向けた研究開発を強力に推進します。



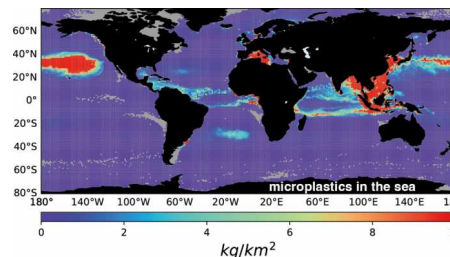
※ERCA：（独）環境再生保全機構

### 3. 事業スキーム

- 事業形態 競争的研究費制度による交付（配分機関：ERCA）
- 委託先等 大学／研究機関／民間事業者・団体／地方公共団体一般
- 実施期間 平成29年度～

### 4. 研究開発成果の例

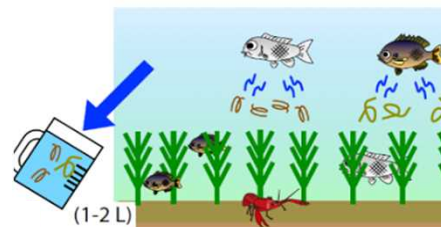
#### 環境中に漏れた全世界のプラスチックごみ約60年分の解析



海洋表層に漂うマイクロプラスチック

1960年代から現在までの海洋プラスチックの行方を世界で初めて重量ベースで解明しました。これまで全世界のプラスチックゴミの5%程度が海に流出し、その約67%（1,680万トン）が海底に沈むなどして、すでに海岸や海面近くに無いことを推計し、研究成果は国連環境計画レポートなどに引用されています。

#### 採水から30分で生物調査が可能な新手法を開発



水中や土壌中などに存在する生物由来のDNAのことを「環境DNA」と言い、生物種の調査に活用されています。これまで環境DNAの抽出・測定は実験室で行う必要がありましたが、野外で採水からDNA抽出、検出まで30分で完了する手法を開発しました。今後、様々な調査の効率化が可能で。

